

大台ヶ原自然再生推進計画（第2期）（案）に関する地域説明会概要

1. 開催日時

【川上村】

- 日時：平成20年2月25日（水）14：00～16：00
- 場所：川上村 第一会議室
- 参加者：14名

【上北山村】

- 日時：平成20年2月27日（金）14：00～16：00
- 場所：上北山村振興センター 会議室
- 参加者：11名

2. 意見概要

【川上村地域説明会の意見】

（全般）

- 森林生態系保全、ニホンジカ個体群の保護管理、新しい利用の在り方推進の3つの柱の中で、優先順位として一番何か大切なのかを明確にしてほしい。また、利用者のニーズに早く応えることが必要である。

（モニタリングについて）

- 動植物の最近の動向や、現時点で何が残っているかなどを調べ、ポテンシャルを把握してほしい。今後は山上だけでなく、周辺の調査も必要になってくる。これからは生物多様性がキーワードである。2010年のCOP10でPRできるように現状把握を行い、対策を講じる必要がある。

（ニホンジカの個体数調整について）

- 捕獲したシカの処理について、有効利用はしているのか。
- 目標生息密度として10頭/km²とあるが、その根拠は。

（周辺地域との連携について）

- シカのGPSのデータが出ていたが、動物は動くので環境省所管地だけの話だけではない。周辺地域との連携については、シカだけでなく森林環境等も含めた他の分野でも必要なので、検討してほしい。

(利用対策について)

- ガイド制度やマイカー規制などへは、予算をしっかりと確保してほしい。また、自然体験する人が全体的に減っている現状を踏まえ、環境省の範囲だけで物事を決めていては問題の解決は難しいことから、環境経済学や、文化庁、文部科学省を含めるなど、新たな視点での検討が必要である。
- ガイドの養成に当たっては、利用者のニーズを調査すべきである。ガイド制度が行われれば、いろいろな循環効果が出てくる。どこかに先行投資するくらいの心構えが必要である。また、費用は必ずしも国が出さないといけないものではない。
- パークボランティアの観察会で費用をとることや、ガイドブックを作成して資料代とするなど、参画者で自立できる体制を構築してもよいのではないか。
- 宿泊付きのバック旅行のようなものを設定すると使いやすいのではないか。
- 利用の仕方についてもストーリーを描く必要がある。経済的活動と繋がっているので地域経済への影響を含めて分析が必要である。地域経済への影響や人の流れでものを見ていかないといけない。経済活動とリンクしていないのが進まない原因になっているのではないか。
- 西大台の利用調整地区を利用しやすくするための措置をとってほしい。
- 歩道外の立入りなどについては、法律やマナーがあっても守られないという現実がある。罰則を強化することや、レンジャーの定員増加などの配置について検討してほしい。
- 西大台では、種子落としマットを使用しているが、カエルツボカビ症などの懸念もあるため、より強化して菌類を落とすといった消毒も考えてほしい。

(標本について)

- 大台ヶ原で採られた生物標本の管理方針を明確にしてほしい。
- 管理場所や使用方法などを整理して、利用しやすいようにしてほしい。

【上北山村地域説明会の意見】

(全般)

- この地域説明会に参加した村民が少ない。大台ヶ原自然再生が、上北山村に関心を持たれていないのではないか。
- 計画上は、「地域と協力して」、「地域振興」等とかかれているが、現実には「地域の負担」ばかりで、マイナス面が多い。
- 環境省職員がもっと足を運んで、地元の実状を聞いて欲しい。

(ラス巻きについて)

- 現状として、ラス巻きは一部剥がれてきているため、景観の観点からすると防鹿柵より

ラス巻きの方が悪い。ラス巻きを撤去して、歩道沿い全体に防鹿柵を設置すべきである。

(ニホンジカ個体群の保護管理について)

- シカの「保護管理」という用語があるが、シカを捕獲するのに、なぜ「保護」がつくのか。
- 猟師がシカ捕獲の際にオレンジ色の服を見ると、シカが逃げてしまう状況である。なんとか工夫してシカを捕獲してほしい。

(周辺地域との連携について)

- 大台ヶ原に隣接している国有林についても対策を講じるべきである。
- 現在設置している「大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議」のメンバーは関係行政機関のみである。民間人を含めた会議にすべきである。

(利用対策について)

- 今後5年間でマイカー規制を実施するのか。
- 火の管理が課題としてあるため、キャンプ指定地は指定してほしくない。
- 西大台利用調整地区において、危険木が伐採されていた。伐採すること自体は構わないが、切り口が見える状態で積んであり、景観上不自然であった。
- マイカーによってドライブウェイが混雑した日は、途中で帰ってしまう利用者がいる。現在、路肩にロープが張ってあるが、それをピーク時だけでも外すことができれば、道幅が広がるため、交通混雑が若干改善する。ピーク時だけでも、路肩のロープを除去して欲しい。
- 小処温泉の利用者は、去年まで400~500人いたが、今年は8人に減少している。小処温泉の利用者は8割が西大台地区の利用者であり、これは明らかに利用調整地区の影響である。小処温泉以外の観光施設についても、利用者数が減少しており、大変困っている。この上、マイカー規制が実施されたら、とても経営が成り立たない。
- パーク&シャトルバスライドを実施することによって、一部の人が大変困るということは良くない。パーク&シャトルバスライドの実施方法として、例えば一方通行にする等により、小処温泉まではマイカーで到達できるようにして、小処温泉の利用者数増加を目指すのはどうか。そうすれば、地元にとって良い形で実施できるのではないか。